

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

定時制の課程である特性を生かし、地域の教育コミュニティへの参画と活性化を図り、自他の生命を大切にすることを育み、安全で安心な学びの場を提供する。また、夢や志を抱き、人生を切り拓くチカラを育成する。

- 1 生涯にわたって豊かな生活を築くため「思考力・判断力・表現力」を育み、個々のニーズに応じた教育を展開
- 2 自己肯定感、自他を思いやる人間性を育成し、互いに違いを認め合う共生社会の推進
- 3 地域社会に貢献できる多様な人材を、様々な体験的活動を通じ育成する

## 2 中期的目標

## 1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現

- (1) 社会の変化に対応した学習の形態を実施し、生徒の能力・適正・興味・関心に応じた授業展開を行う
- (2) アクティブ・ラーニング型の授業や体験活動等を導入し、総合学科としてのカリキュラムの充実を図る
- (3) 確かな学力を向上させる取組みを推進するため、各種資格取得のための支援体制を強化する
- (4) 多様な生徒に対する進路選択のサポートを強化し、キャリア教育の充実を図る
- (5) 魅力ある学校を創り、欠席・遅刻等の改善をめざす

《成果指標：欠席者総数の減少 H27年：6700人、H28：6500人、H29：6000人、H30：5500人》

## 2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進（生徒自らが活気ある学校生活を送る）

- (1) 互いに違いを認め合う共生社会の推進に積極的に取り組み、自尊心と自他を思いやる豊かな人間性を育む
- (2) 学校生活全般の活性化を図り、心身ともに健やかに、人生を切り拓くチカラを育成する
- (3) あいさつ運動の定着化により、社会人として必要な基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける
- (4) SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）等外部機関の活用を通じ、生徒を主役に家庭・地域との連携を図る

※「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、平成31年度までに文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校

定時制課程の中途退学率の11.1%以下を目標とする。（中期的目標1～4の全てを通じて）《指標 H27年：25.8%、H28：22%、H29：17%、H30：12%》

## 3 教職員人材育成と学校運営体制の再構築

- (1) 教職員の人材育成をベースに、チームワーク・ネットワーク等を駆使し「めざす学校像や目標の達成」に取り組む
- (2) 同僚性の向上をめざし、「ミドルアップ・ダウン型」の組織作りとミドルリーダーの育成
- (3) 各種委員会の再編と活性化を行い、円滑な校務運営を推進 <3委員会：生徒サポートチーム、初任期育成チーム、ICT充実委員会>

《各種委員会をスクラップ&ビルド H28：3委員会の試行、H29：3委員会の充実、H30：3委員会の発展》

## 4 開かれた学校づくりのための取組みを推進する

- (1) 地域との連携や地元中学校への広報に努める（Webの活用等を工夫）
- (2) 地域とともに歩み、親しまれる学校づくりに努める

《企業・進学先の訪問 H28:H29:H30のそれぞれの卒業生に対し1回以上支援を継続し、定着指導を実施》

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 昨年度と改善された項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活の満足度を問う質問（16項目）について、生徒の肯定感が「入学、勉強、選択科目、進路、行事等」全体的（15/16…94%）アップ。</li> <li>・ 「先生は、悩みや相談に親身になって対応してくれる」は、生徒・保護者の肯定感の高さと教員自身の評価が一致し、教員においては、100%肯定的意見である。寄り添う教育の成果がでている。</li> <li>・ 「いじめは見られない」については、生徒・教員の肯定感が増加。</li> </ul> <p>(2) 生徒と教員及び保護者と教員の回答傾向の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権の設問は、肯定的な答え方が生徒・教員ともに増加。保護者の「わからない(64.7%)」から、学校ブログ等の活用及び周知する機会を増やし広報等を充実させる必要あり。</li> <li>・ 施設設備については、夜間の定時制として安全の観点から照明等の充実により、生徒の肯定感が高い結果になった。保護者の肯定感がやや微減。具体的な意見を聴取したい。</li> <li>・ 生徒と教員がともに、人権教育への肯定感がアップ。研修の成果である。一方「キャリア教育」関連は、教職員の肯定感が30%アップし、進路と学年を中心に組織的に取り組んできた結果である。</li> </ul> <p>(3) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業後を見据えたキャリア教育・進路指導の体制の見直し、新たに「進路ガイダンスブック」作成、卒業生の就職後の定着指導等の改善の結果、肯定的な意見が多くなった。さらに新しい方法を検討・確立していくことが保護者との信頼関係を高める方法と考えている。</li> <li>・ 保護者と学校との協働や関心を高める工夫が必要である。今年度は、学校ブログ等で情報伝達を試みたが、様々な形での保護者との連携を考えなければならない。学校のサポーターとして参画してもらうことを考えていきたい。</li> </ul>	<p>第1回：6月10日(金) —授業見学と協議—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業式で、生徒が「お世話になった先生」を招待し、生徒との触れ合いに感動した。今後も生徒のために継続してほしい。</li> <li>・ 保護者が参加しやすい行事の日程も考えて欲しい。地域へ出て行くのは大賛成。学校はいろいろと苦情も多いが、地域と旨くいけば力になる。</li> <li>・ 授業をみて、息子の友達などが挨拶してくれた。若い世代に挨拶させることは大事。</li> <li>・ 生徒の「居場所」を大切にしたい。中学校などの授業見学を進める。</li> </ul> <p>第2回：11月4日(金) —学校経営計画の進捗および協議—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時制のセーフティネットの役割も考え、生徒の状況を判断して弾力的に転入学を受け入れた。このような受け入れ方は中学校としてもありがたい。</li> <li>・ 防災教育で、地域とつながりが大切にし、津波を想定して避難訓練の際に地域の公園に避難することを試みた。新たな取組みを通じ、生徒の実行力と成長を感じた。</li> <li>・ 和泉総合定が最近元気になって、変わり始めていることを感じる。定時制のイメージを打ち破る取組みや地域につながる取組みが拡がり、生徒の自己肯定感につながることを期待する。ブレイクスルーは大事であると感じている。</li> <li>・ SSWの活用については、先生方が活用し成功事例を積み重ねていくことが大事であると考えているので期待している。</li> </ul> <p>第3回：1月26日(木) —H28年度学校経営計画の協議および総括—</p> <p>○授業アンケート、実態調査、自己診断結果の分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケートの結果、普通科と工業科の平均を比較した所、普通科の平均が高い結果となった。自己診断の「学校の勉強についてよくわかる」項目の生徒数値が15%アップ。「アクティブ・ラーニング」実施と研修の成果が結びついたことで「わかる授業」となったことは非常に教員が熱心に取組んだ結果といえ評価できる。</li> <li>・ 「先生は、悩みや相談に親身になって対応してくれる」は、生徒・保護者の肯定感の高さと教員自身の評価が一致。定時制として寄り添う教育力の向上で評価できる。</li> <li>・ 自己診断の人権（LGBT）に関する項目では、生徒・教員ともに向上は先進の取組みとして評価できる。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎基本の知識・技能の習得と生徒の進路実現	(1) 能力・適正・興味・関心に応じたアクティブ・ラーニング型の授業展開  (2) 魅力ある学校創りと欠席・遅刻等の改善  (3) 進路選択のサポートを通じたキャリア教育の充実	(1) ・生徒の基礎学力向上にむけた「わかる授業」実践のため、アクティブ・ラーニング型の授業展開を興味・関心に応じて実施する。様々な学校との連携を行う  ・生徒の理解度や個々のニーズを把握し、具体的な賞賛を伝えることで自己肯定感を育む (2) ・保護者との連絡体制・連携の強化を行うとともに、家庭訪問等において早期の対応を心がける  ・保護者懇談会は勿論、機会を捉えて生徒面談を行い細やかな意思の疎通を図る (3) ・生徒のニーズに応じた、教科科目の選択や受講指導の実施 ・進路指導の充実のため、公共職業安定所等との連携や企業訪問による就職先の開拓 ・高校生の就職情報サイト等の新たな活用を検討 ・あらゆる機会を通じて、入学時からのキャリア教育の充実を図る	(1) ・様々なタイプの学校との相互交流等を年3回実施し、授業改善の工夫を行う  ・各教科・科目 IzSoTei Standard の共有・改善の実施 (2) ・生徒・保護者への電話連絡・家庭訪問等を組織対応で行う ・出席率の前年度比3～5%増（昨年度約72%） ・総遅刻者数減少。（1限目の授業定着）（昨年度末5253人） (3) ・資格取得合格者数の前年度数を維持（昨年度65人） ・応募前職場見学会や企業訪問、前年度レベルを増加（昨年度のべ25人、21社） ・進路決定率を前年度比5～7%増（昨年度末66%）	(1) ・他校全日制初任者、中学校の研究授業を経て、支援学校との共同学習を2月に2回実施。授業改善の骨子を育成(○) ・観点別評価へ転換し、「パッケージ研修支援Ⅱ」を通じて共有・改善(◎) (2) ・出席率は前年度とほぼ同様(○)（今年度約71.3%） ・総遅刻者数減少。（1限目の授業定着）(○)（今年度末4575人） (3) ・資格取得合格者数では減少したが、全体の合格率は96.8%(○)（今年度63人） ・応募前職場見学会は37社、参加数54人で前年より大幅に増加(◎) ・進路決定率を前年度比5～7%増(84.2%)(◎)
2 豊かな人間性の育成と共生社会の推進	(1) 円滑な人間関係を築くためのマナーや規範意識の向上  (2) 安全安心な学校環境の整備  (3) 多様な学びの場を提供  (4) 生徒会活動・部活動の活性化  (5) 他人や自分に対する人権意識の向上	(1) ・登校時の正門前での「あいさつ運動」の継続と、全ての授業の開始・終了後に「起立・礼」を励行する (2) ・正門前から玄関に至る緑化運動（四季の花植え）と冬季のイルミネーションでの生徒の迎え入れ ・正門周辺の外灯など避難訓練等の全体集合場所の環境整備に力を注ぐ ・スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の充実を図り、さらにSSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）の活用で教員と連携強化し、地域の福祉等外部組織との協働で様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用 ・学年団や分掌等、あらゆる場面での組織的対応の実践 (3) ・生徒会活動・部活動の活性化 ・生徒会活動で取組む清掃活動の参加者の輪を広げ、普段の清掃に繋げる ・フリースクール等、地域教育として高大接続等も併せて社会教育に関わる人材の活用を図る (4) ・生徒会活動を通じ、学校の中核となる生徒を育成 (5) ・身近な差別事象や人権問題を取り扱うことで意思の向上を図る ・薬物乱用防止教室、交通安全教育などは、具体的な内容を伝えることで充実を図る	(1) ・授業開始、終了時の挨拶実施の励行と定着を、年間の授業観察を通じ、指導・助言する (2) ・教職員や保護者に限らず、多くの生徒の参加を促す（昨年度、生徒1人参加→3人～5人に増加） ・避難訓練集合場所の照度向上とイルミネーションの拡充を学校薬剤師と連携して改善 ・「校内ケース会議」の活動定着を教職員全体で共有 ・SSW、地域の就学支援組織等の外部機関との連携。保護者の協力体制による家庭環境の充実で進路実現 (3) ・部活動参加者の5%増加（昨年度71.6%参加、のべ110人） ・生徒会の清掃を含めた活動を活性化 (4) ・文化祭での生徒の主体的活動の充実と保護者の参加増（H27年度、外部参加者25名） (5) ・学校教育自己診断の生徒の人権に関する設問で肯定的な回答率5%向上（昨年度は42%）	(1) ・挨拶の励行は定着(◎) 授業・全校集会等で指導(○) (2) ・正門・玄関の緑化運動、イルミネーション設置(○) 生徒は不参加(△) ・安全指導のペイントを生徒指導部、工業科および卒業生も一緒に共同で実施(○) ・避難訓練集合場所の照度向上を学校薬剤師の助言に基づきLEDライト2基増設(◎) ・「校内ケース会議」の活動定着と情報共有。年間10回開催。『生徒サポートチーム』によるプレゼン発表（2回）実施。府内全域に情報を発信する(◎) ・SSW、地域市町村等の外部連携により、生徒の住居確保に繋がる成果があった(○) (3) ・部活動参加者約25%増加(○)（のべ96.8%参加、122人） (4) ・文化祭での生徒活動の充実と保護者参加大幅増（58名）(◎) (5) ・学校教育自己診断の生徒の人権に関する肯定的な回答率11%向上(◎)
3 人材育成と学校運営体制の再構築	(1) 開かれた学校づくりをめざした取組み  (2) 「ものづくり体験学習」・オープンキャンパス等を通じた人材育成	(1) ・秋季発表大会・産業教育フェア等への積極的参加を教員全体で取組み、本校の教育活動の成果を地域に広報 ・エコデンレースに繋げる全国自動車教育研究大会が近畿地区開催なので、教員全体で協力体制を強化する ・地域の清掃活動への参加、校内での美化運動と学校周辺の清掃活動などの定着 ・文化祭等の学校行事への近隣住民・中学校教員を招き、学校の状況を知らせるとともに意見を参考にして今後の学校運営に資する (2) ・夏季休業期間を利用して地域の児童・生徒、保護者・小中学校教員対象の「ものづくり体験学習」を実施する ・全日制教員と定時制教員のコラボで協力して進める ・冬季学校説明会を「ものづくり」を主体に全員で実施 ・普通科、工業科の教員の連携を図る	(1) ・地元中学をはじめ地域との連携を行う ・「近畿はひとつ」を合言葉に協力して成功をめざす ・生徒と教職員による、年2回の地域清掃を増やし定着を図る ・文化祭等の学校行事への外部参加数の維持（例年15～20人） (2) ・「ものづくり体験教室」参加者数の増加（昨年度11名） ・冬季学校説明会参加者の増加（昨年度14名） ・協力体制充実と同僚性の構築	(1) ・地元中学の研究授業参加、地域保育園の縁台製作、読書活動の読み聞かせ(○) ・全国研究大会は「近畿はひとつ」を合言葉に教員全員の参加で成功(◎) ・生徒会と教職員の年10回の地域清掃を定着(◎) ・文化祭等の学校行事への外部参加数増加（H2870人）(◎) (2) ・「ものづくり体験教室」参加者数の増加（36名）(◎) ・冬季学校説明会参加者の増加（11名）(△) ・「チームいずそうてい」全ての行事を全教員で実施(○)